

平成 26 年 1 月 30 日

報道関係各位

独立行政法人 国立科学博物館

ミニ企画展

「ダーウィンフィンチ —ガラパゴス諸島で進化を続ける鳥—」

開催のお知らせ

国立科学博物館（台東区上野公園、館長：林良博）におきましては、このたび下記のとおり 2 月 11 日（火・祝）から、ミニ企画展「ダーウィンフィンチ —ガラパゴス諸島で進化を続ける鳥—」を開催いたしますので、お知らせいたします。

南米沖のガラパゴス諸島周辺のみには生息する、小型の鳥類ダーウィンフィンチ。チャールズ・ダーウィンはこの鳥から進化論の着想を得たとされています。

国立科学博物館では、ダーウィンフィンチの調査研究およびその精緻な模型（バードカービング）の製作のために、貴重な研究用剥製をアメリカ自然史博物館から借りることができました。本ミニ企画展では、アメリカ自然史博物館の許可を得て、ダーウィンフィンチの剥製を公開いたします。

ガラパゴス諸島には絶滅危惧種も多く、それらの標本の国際的な移動は厳しく制限されています。15 種中 14 種と、ほぼ全種のダーウィンフィンチ類の剥製が見られるのは、日本で初めてのことです。

ぜひこの機会に、貴重な標本と、それをもとに作られたバードカービングをご覧いただければと思います。

記

【会場】国立科学博物館（台東区上野公園 7-20）日本館 B1 階多目的室

【開催期間】平成 26 年 2 月 11 日（火・祝）～平成 26 年 3 月 2 日（日）

【入館料】常設展示入館料のみでご覧いただけます。

（一般・大学生：600 円（団体 300 円）高校生以下および 65 歳以上無料※団体は 20 名以上）

【休館日】毎週月曜日

【主催】国立科学博物館

【展示内容】別添の「展示の概要」にてご紹介します。

※ 写真の撮影などについては、後述「お問い合わせ先」までご相談ください。

担当研究者のプロフィール



国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ研究主幹 西海 功 (にしうみ いさお)

専門分野は鳥類の分子生態学、系統地理学に関する研究。特に、分子生物学的な手法を用いて、繁殖生態や種分化に関する研究を行っています。現在、東アジアの鳥類 DNA バーコーディングに力を入れています。

1967 年生まれ。大阪市立大学理学部卒業。博士（理学、京都大学）。1996 年より国立科学博物館動物研究部研究官を務め、2009 年より現職。

国立科学博物館 動物研究部長

倉持 利明 (くらもち としあき)

専門は寄生虫学。寄生蠕虫類（扁形動物の吸虫類・条虫類、線形動物、鉤頭動物など）の分類、系統分類、動物地理の研究。日本近海産魚類の寄生虫相を明らかにすることを目指しています。

1955 年生まれ。東京水産大学（現：東京海洋大学）、東京農工大学卒業。岐阜大学大学院連合獣医学研究科修了。博士（獣医学）、獣医師。



国立科学博物館 事業推進部 学習企画・調整課 専門員 岩崎 誠司 (いわさき せいじ)

専門は博物館教育。博物館の魅力を来館者や小中高校生に伝えるための教材開発や研修を行っています。今回のダーウィンフィンチのバードカービングも館内や学校向け教材として活用することを計画しています。

1968 年生まれ。千葉大学園芸学部卒業。放送大学大学院・総合文化プログラム環境システム科学群修了。1992 年より国立科学博物館教育部教育普及官を務め、2011 年より現職。

本件に関するお問い合わせ先

国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 担当：吉野、濱村

T E L 03-5814-9175、9883 F A X 03-5814-9899

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

E-mail:kikakuten@kahaku.go.jp

詳細については下記をご覧ください。

<http://www.kahaku.go.jp/>

ミニ企画展：

「ダーウィンフィンチ —ガラパゴス諸島で進化を続ける鳥—」

展示の概要

1. ダーウィンフィンチとは

ガラパゴス諸島とココ島にのみ生息する小型の鳥類ダーウィンフィンチ（ガラパゴスフィンチ）は、進化論を唱えたチャールズ・ダーウィンがビーグル号の航海で採集し、後に世界に紹介されたもので、進化の実態を示す例としてよく知られています。

見た目は違う種類にしか見えない鳥たちが、実は同じグループ（ダーウィンフィンチ亜科）であったという事実は、ダーウィンが「種の起源」を著すのに大きな影響を与えた、進化の根拠の一つとなっています。

オオガラパゴスフィンチ(左)と
グリーンムシクイフィンチ(右)
(ともに John Gould 画)

同じダーウィンフィンチのグループだが、くちばしの形状など、見た目が大きく異なる。



2. 展示概要

国立科学博物館では、調査研究およびその精緻な模型であるバードカービングを作製するために、アメリカ自然史博物館で保管しているダーウィンフィンチ類のうち14種の研究用剥製を借用し、そして期間を限定して展示を開催することの許可を得ることができました。本ミニ企画展では、このダーウィンフィンチ類の研究用剥製を紹介します。展示用に制作された剥製とは雰囲気が違う、実際に研究に使用されている標本の実物をご覧ください。貴重な機会です。



ダーウィンフィンチ類の研究用剥製
上：オオガラパゴスフィンチ
下：グリーンムシクイフィンチ

また、これにあわせて、標本や写真などをもとに今回制作した精緻な模型「バードカービング」も紹介します。体の大きさやくちばしの形状などの違いを、最新の遺伝子解析による系統樹とともにご覧いただけます。



標本や写真をもとに作られた精緻な模型
バードカービング



このほか、ダーウィンフィンチの生息するガラパゴス諸島の環境、ダーウィンフィンチと進化論、最新のダーウィンフィンチに関する研究、そしてバードカービングの歴史などを、標本や資料、映像を交えながら紹介していきます。

ガラパゴスゾウガメの剥製

3. 特に見ていただきたいところ

ダーウィンフィンチをはじめ、ガラパゴス諸島には絶滅の恐れのある種も多く、それらの標本の国際的な移動は厳しく制限されています。そういった事情もあり、現生する全15種中14種と、ほぼ全種のダーウィンフィンチ類の実物剥製を見ることができるのは、日本で初めてのことです。

この貴重な機会に研究用の実物標本を見て、ダーウィンが感じた驚きをぜひ追体験してもらえたらと思っています。そして標本を観察することでわかってくることがあるという、博物館の研究活動について少しでも触れてもらえればと思います。

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの「企画展」写真貸出からお申し込みできます。

(http://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/sample_photo.php?group=0001347519672417)



オオガラパゴスフィンチ(上)とグリーンムシクイフィンチ(下)
(アメリカ自然史博物館所蔵)
写真提供: 国立科学博物館



ダーウィンフィンチの精緻な模型
バードカービング
写真提供: 国立科学博物館



グリーンムシクイフィンチ
(John Gould 画)



ダーウィンフィンチ類の研究用剥製(14種)
(アメリカ自然史博物館所蔵)
写真提供: 国立科学博物館

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 展覧会の開催情報紹介欄に、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は確認のため、校正の段階でお送りください。(記事内容をチェックするものではありません。)
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りいたしますようお願い申し上げます。

〈広報に関するお問い合わせ先〉 国立科学博物館 事業推進部 広報・常設展示課 原田、吉野
電話 03-5814-9855、9858 FAX 03-5814-9898
E-mail: shuzai@kahaku.go.jp
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20